

2025 年 3 月期第 2 四半期 決算説明会 質疑応答（要旨）

Q：日本地域の第 2 四半期（単）のヘマトロジー分野売上高が対前年 40%増と伸長した要因は何か。

A：ヘマトロジー分野の古い機種種の保守サービスを終了させることをお客様に伝達したことで、最新機種種の XR シリーズへの買い替えが進んだ。また、機器の設置台数増加に伴い、試薬の売上も好調に推移している。

Q：2025 年 3 月期通期業績予想について、売上原価だけでなく販管費、研究開発費も引き下げられているが、その内容について伺いたい。

A：販管費については、過度な削減というよりは、各地域で投資対効果および利益を意識するような意識改革が、より向上した結果、上期で 20 億円、想定よりも低く抑えることができた。研究開発費については、前年度後半にピボットの一環として研究テーマの見直しを行ったため、前年度と同等に抑えることができ、上期では 10 億円の削減となったが、下期は研究ポートフォリオに基づいて研究を進めているため、上期よりも多く発生する見込みである。

Q：中期経営計画について、3 年固定方式にした場合でも期中で見直す項目があるということなのか。見直しの対象は何か。

A：3 年間固定方式に変更するが、目標達成のため中間点で見直しを行う予定である。見直し項目は、その時点での進捗や、為替を含め、事業環境の変化に合わせ、見直しを行う。

Q：中国地域の市況について、反腐敗運動の影響はないという理解でよいのか。

A：反腐敗防止運動の影響はない。一方、免疫検査試薬の集中購買については、集中購買価格の適応を開始した省が 5 省から 8 省へ増加していることなどから、徐々に影響が出る可能性があるとみている。

Q：米州地域の通期見通しについて、現地通貨ベースで引き下げた理由は何か。

A：上期の業績および為替の実績を加味して、下期は地域の通期目標は若干変更した。米州はお客様側で大型の医療機器の納品を優先しているため、機器の検収の遅れが発生しているため、それを考慮した結果である。受注は好調である。お客様には、ヘマトロジー分野の機器設置の優先度をあげてもらうよう働きかけている。

Q：収益性について、上期の粗利益は高いが、下期はプロダクトミックスの影響などで低めに設定されている。下期および来期以降の粗利益、原価率設定の考え方は。

A：下期については、米国での機器設置などによる機器売上が伸長する予定であるため、プロダクトミックスを変更し、原価率は上期よりも少し高めに設定している。今後については、患者数の増加や機器設置台数の増加、新興国などの伸長により、引き続き試薬売上が好調に推移する見込みであるため、原価率は対前年では良い方向に向かっていく予定である。

Q：インドの成長が今後の収益性向上につながると思われるが、他の地域に比べてインドの魅力とは何か。

A：インドについては、マーケットの伸長に加え、当社シェアの伸長もあり、機器・試薬売上が伸長しており、機器の量産効果により収益性の改善が期待できる。インドにおいては、新たに設立した工場で試薬だけでなく機器製造も行うため、工場の本格稼働後は、機器、試薬とも原価率の改善を見込んでいる。

Q：原価率について、1Q に比べて 2Q 累計は +0.5 ポイントと大きく改善しているが、プロダクトミックス以外の要因はあるのか。下期以降の原価率を引き下げている要因は。

A：プロダクトミックスの他、プレゼンに記載しているような個々の原価改善の取り組み成果が出てきている。なお、1Q から 2Q の 3 カ月の間でプロダクトミックスに大きく影響する事象があったわけではない。下期以降も原価改善には取り組んでいくが、機器の売上伸長を見込んでいるため、上期に比べると悪化するとみている。

Q：試薬の伸長率の考え方について、上期は現地通貨ベースで 10%超の伸長であったが、今後もこのような伸長が継続するのか。

A：試薬は引き続き堅調に伸長するとみている。COVID-19 以降の患者数の戻りや機器設置台数の増加の他、各国の高齢化による検査需要は引き続き強い。特に東南アジアなどでは政府によるヘルスケア投資が好調であるなど、検査需要は伸びていく。

以上

Disclaimer

- ・本資料のうち、売上予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が予想数値と大きく異なる可能性があります。
- ・本資料に記載されている製品等の情報は、薬事認可取得の有無に関わらず宣伝広告および医学的アドバイスを目的としているものではありません。